

令和8年度事業計画

I 方針

近年、世界人口の増加に伴う食料需要の拡大に加え、気候変動による異常気象の頻発、地政学的リスクの高まり等により、世界の食料生産・供給は不安定化している。また、国連サミットで採択された持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた取組の進展など世界的に持続可能性に対する意識が高まるなか、環境や資源循環等への配慮が求められている。さらに国内では、中山間地域等を中心に人口減少・高齢化が急激に進んでおり、農村の地域社会の維持が懸念されている。

このような状況を踏まえ、改正食料・農業・農村基本法には「食料安全保障の確保」、「環境と調和のとれた食料システムの確立」、「農村の振興」等が基本理念の柱と位置付けられ、昨年4月に公表された新たな食料・農業・農村基本計画では、「食料安全保障の確保」が大きく前面に打ち出され、国内の農業生産の増大が基本であるとしている。

飼料基盤に立脚した畜産は、国土を有効活用しつつ人が食用利用できない牧草等から食料を生産し、飼料の生産、家畜への給与、堆肥の農地への還元といった資源循環の形成による持続的畜産の実現に寄与するとともに、雇用や関連産業の発展を通じた地域の維持活性化に資するものである。このため、新たな基本計画の理念の実現に貢献するものであり、同月に公表された酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針においても、国内飼料基盤に立脚した安定的な畜産経営への転換を促すこととされているところである。

これらを踏まえ、令和8年度においては、飼料生産・利用に関する技術情報の提供、飼料の生産性向上や品質改善に向けた優良な飼料作物品種の利用の促進、牧草や飼料用稲の種子の安定供給、強害雑草の駆除、飼料作物生産・利用の地域モデルの調査・分析等を推進し、国内土地基盤を十分に活用した飼料増産による畜産物の低コスト生産を進めるとともに、労働力不足に対応した公共牧場・コントラクターの活用や放牧のより一層の普及を図ることが重要である。

また、生産サイドの取組みを推進するだけでなく、放牧を活用した畜産物等についてその特色等を広く情報発信するなど、消費者の理解を醸成し需要拡大を図るための取組みが必要である。

当協会は、これらの諸課題に対処し、飼料基盤に立脚した畜産を確実に推進するため、会員相互の連携強化の下、関係者と一体となって飼料増産に関する事業を積極的に実施することとし、令和8年度においては次の事業に取り組むこととする。

Ⅱ 具体的な事業計画

1 公益事業に係る事業計画

(1) 飼料増産の普及啓発の取り組み

① 飼料増産に係る推進会議等の開催（地域の飼料生産性向上対策事業）

飼料増産運動を全国で展開するため、国、都道府県等の関係者による会議を開催し、ブロック段階等における飼料増産推進計画を策定する取組みを推進するとともに、自給飼料増産の重要性の啓発を行う。

② 飼料増産優良事例調査（地域の飼料生産性向上対策事業）

（全国自給飼料生産コンクール実施事業）

自給飼料生産の優良事例を広く紹介し自給飼料の生産振興を図るため、放牧やコントラクターを含め自給飼料生産に優れた取り組みを行っている各地の事例を調査するとともに、全国自給飼料生産コンクールを開催する。

③ 技術情報の発信（地域の飼料生産性向上対策事業）

飼料増産の普及啓発のため、飼料増産に関する技術情報誌として「グラス&シード」等を発行するとともに、インターネットを利用した飼料作物の生産・利用技術の紹介等の飼料増産に係る技術情報の発信を行う。

(2) 優良品種の普及等による単収や品質の向上の取り組み

① 飼料作物の品種比較試験の実施（地域の飼料生産性向上対策事業）

飼料作物優良品種の普及を促進し単収向上等を図るため、北海道においては、飼料用とうもろこし 15 品種系統、牧草 2 草種 5 品種の品種比較試験を実施するとともに、都府県においては、飼料用とうもろこし 30 品種系統、ソルガム・スーダングラス 18 品種、イタリアンライグラス 26 品種、その他牧草等 5 草種 17 品種の品種比較試験を実施し、奨励品種の認定に関するデータを取得し、都道府県等へ提供する。

② 優良品種の展示圃設置及びパンフレットの作成配布等

（地域の飼料生産性向上対策事業）

飼料作物優良品種の普及、栽培利用技術の向上等を図るため、優良品種の展示圃設置及び実証栽培に取り組むとともに、品種特性等をまとめたパンフレットの作成・配布等を行う。

③ 飼料生産利用技術向上の支援（地域の飼料生産性向上対策事業）

飼料作物優良品種の普及、栽培利用技術向上、公共牧場の利用促進等を図るため、地域研修会の開催及び専門家の派遣等を行う。

④ 草地診断の推進及び草地改良技術の普及による草地生産性の向上

（飼料作物の生産性向上対策）

草地の生産性向上を図る上で課題となっている草地診断の推進及び草地改良技術の普及を図り難防除雑草の繁茂や裸地化等により生産性の低下した草地から高位生

産草地または高位生産飼料畑へ転換する技術の現地実証に必要な経費の一部について助成を行う。

⑤ 越夏性チモシー系統の育成

(スマート育種によるチモシー越夏性向上事業：応募中)

栃木県下で越夏性について選抜した育種素材をもとに、スマート育種技術を用いて評価・選抜を実施し、高温及び乾燥に強いチモシーの越夏性系統を育成する。

⑥ 高能力飼料用稲専用品種の育成

(高能力飼料用稲マーカー育種事業：応募中)

飼料用稲について、高タンパクの極短穂茎葉型系統等を材料として、DNA マーカー選抜により病害抵抗性等を高めつつ品種化し普及させることで、水田を活用した飼料自給率の向上に資する。

⑦ 飼料用大豆の生産及び利用の推進

(地域の飼料生産性向上対策事業)

国産の飼料用ダイズについて、イネ科牧草をリビングマルチとして活用する栽培体系の普及のため、品種、施肥管理、虫害対策、機械体系を比較検討し単収向上に取り組む。

⑧ 飼料作物種子実態調査等の実施

(生産性の高い持続可能な飼料産地形成支援：応募中、
地域の飼料生産性向上対策事業)

飼料作物優良品種種子の安定的な供給を図るため、海外における採種状況等を調査するとともに国内における種子の流通実態を調査する。

⑨ 飼料用稲専用品種の普及 (地域の飼料生産性向上対策事業)

地域の条件に応じた飼料用稲専用品種の普及及び栽培利用技術の改善を図るため、専用品種の実証ほの設置、生産コストの要因分析、研修会の開催及び飼料稲アドバイザーの派遣等を実施する。

⑩ シバ型牧草の育成 (放牧に適した踏圧に強いシバ型牧草開発事業)

西南暖地に適したシバ型牧草を対象に、収量性、緑度維持、採種性、踏圧耐性等に優れた優良系統を育成し、中山間地域における放牧の拡大に資する。

⑪ 気候リスクに対応した飼料生産技術の実証及び普及

(気候リスク対応飼料生産技術実証事業)

寒地型永年生牧草の夏枯れや台風によるトウモロコシの倒伏などの気候リスクに対応する栽培技術を確立することで、飼料の安定生産及び増産を可能とし、もって飼料自給率の向上を図る。

(3) 放牧の推進の取り組み

① 放牧実態調査等の実施 (放牧畜産普及拡大高度化推進)

放牧の効率的な普及活動を行うため、放牧実態の調査を実施し、そのデータを踏まえて地域の実情に応じた各種事業を展開する。

② 地域における人材育成と指導体制の構築（放牧畜産普及拡大高度化推進）

放牧畜産の普及を図るため、放牧畜産実践牧場等の認証及び放牧畜産基準認証申請に基づく現地確認等を行う。また、地域におけるアドバイザー人材を育成するため、研修会の開催や地域の実情に応じた技術指導を実施するとともに、放牧を志向する新規就農者等の研修参加を支援する。

（４）コントラクター等による国産粗飼料の生産・流通円滑化の取り組み

- ① コントラクター等の規模拡大への支援（安定的な国産飼料の供給支援：応募中）
コントラクター等が行う、飼料（飼料用米を除く）の生産・作業受託、稲わらの収集について規模拡大を行い、畜産農家等と５年以上の長期契約を行う取組を支援する。

- ② 飼料作物生産・利用の地域モデルの調査・分析
（生産性の高い持続可能な飼料産地形成支援：応募中）
飼料生産組織を核とする青刈りとうもろこし等の飼料作物の持続的な生産・利用に係る地域モデルの調査・分析等を行う。

（５）消費者へ草地畜産の理解を醸成するための取り組み

- ① 地域における生産・消費一体となった放牧の推進
（放牧畜産普及拡大高度化推進）
地域における放牧畜産への理解醸成及び放牧畜産物の認知度を向上させるため、放牧酪農乳製品フェアの開催、消費者等と放牧畜産実践者等による意見交換会を開催する。

2 収益事業に係る事業計画

(1) 飼料作物種子の増殖の取り組み

① 飼料作物優良品種の海外契約採種（海外契約採種安定化対策事業）

公的機関等で育成された優良な飼料作物品種について、10 草種 25 品種、合計 442t の種子を増殖し、買受け予約のある 412t を販売する。

令和8年度海外契約採種安定化対策事業計画

(数量：t)

種 類	令和 8 年度 供給				計	令和 8 年度 売 渡	次期繰越
	繰越 (見込)	生産(入荷)					
		草種	品種	数量			
イタリアライグラス	359	1	5	149	508	176	332
多年生牧草	192	8	19	281	461	210	251
青刈飼料作物	152	1	1	12	164	26	138
計	703	10	25	442	1,133	412	721

② 飼料用稲種子の増殖配布

(飼料用稲種子増殖配布事業、地域の飼料生産性向上対策事業)

令和 9 年播種用として、令和 8 年度に 12 品種約 334t の種子を増殖するとともに、原種用として 5 品種約 12 t の種子を増殖し、配布及び調整保管を行う。(次ページに令和 9 年播種用種子増殖・配布計画を掲載)

種子の増殖、配布に当たっては、生産地の多元化、ロットの細分化、品質管理についての種子生産者への指導等を通じ、優良種子の確保に努めるほか、運輸 2024 年問題に対応した種子の配送を引き続き行う。

なお、飼料稲アドバイザーを配置し、飼料用稲専用品種の栽培・利用技術等に関する現地指導を行う。

③ 飼料作物種子の安定的供給（飼料作物種子備蓄対策：応募中）

飼料作物等優良品種種子の安定的な供給に資するため、不測の事態に備えた種子の備蓄を行う。

④ 協会育成品種の増殖・販売（海外契約採種安定化対策事業）

協会が育成したイタリアンライグラスの「はやまき 18」、「JFIR-20」、シバの「善緑」、「たねぞう」等について販売を行う。また、北海道優良品種に認定されたペレニアルライグラスの新品種「ほくとう」について、家畜改良センターにおいて原種生産を進めるほか、海外での種子増殖を開始する。

【令和 9 年播種用種子増殖・配布計画】

品 種 名	令和 9 年播種用種子増殖計画		令和 8 年播種用
	面積(ha)	増 殖 量 (t)	配布見込量(t)
つきはやか	9.0	21.0	16.1
つきあやか	8.0	14.4	11.2
たちあやか	12.5	23.5	22.3(0.02)
つきすずか	17.0	59.5	44.0
たちすずか	13.0	45.5	44.4
つきことか	4.5	7.9	6.2
リーフスター	6.0(0.65)	15.0(1.8)	10.2
タチアオバ	7.0(0.4)	35.0(1.8)	27.8
夢あおば	10.5(1.0)	63.0(5.4)	47.6
べこあおば	0.0	0.0	4.6
モミロマン	0.0	0.0	1.9
クサホナミ	0.0	0.0	1.5
モグモグあおば	4.8(0.3)	24.0(1.2)	22.3
みなちから	2.0	12.0	8.6
ミズホチカラ	2.5(0.3)	13.25(1.8)	16.3
北陸 193 号	0.0	0.0	1.4
合 計	96.8(2.65)	334.1(12.0)	286.4(0.02)

注)表中()内は原種分で外数である。

(2) 飼料作物種子の検査等の取り組み

① 飼料作物の種子検査・証明 (飼料作物種子証明事業)

17 草種、合計約 3,500t の種子検査を実施し、証明書を発行する。

令和 8 年度種子検査計画

項目	令和 8 年度計画	令和 7 年度実績見込み
流通種子検査(kg)	3,500,000	2,971,630
(内海外増殖種子輸入分(kg))	(1,800,000)	(1,374,233)
根粒菌接種確認(kg)	70,000	27,800
圃場検査(a)	20	0
生産種子検査(kg)	100	0

② **ライグラス類の倍数性の検査**（ライグラス倍数性検査事業）

イタリアンライグラス等の倍数性について、会員等からの依頼により検査を行う。

③ **とうもろこしす紋病抵抗性遺伝子の検査**

（とうもろこしす紋病抵抗性遺伝子検査事業）

とうもろこしす紋病抵抗性遺伝子の *Ht1* 及び *Ht2* について、協会が開発した遺伝子マーカーを用いて、会員等からの依頼により検査を行う。

（３）飼料作物種子の表示適正化の取り組み

協会が定めた「飼料作物種子表示運用基準」等に基づき、種苗会員による飼料作物種子の包装や証票における品種表示等の適正化を進める。

（４）出版による広報の取り組み

既刊の出版物の販売に努める。

３ その他

- （１）「全国コントラクター等経営高度化推進協議会」の事務局として活動する。
- （２）「ふれあい牧場協議会」の事務局として活動する。
- （３）「全国公共牧場協議会」の事務局として活動する。
- （４）「全国放牧畜産ネットワーク協議会」の事務局として活動する。
- （５）「農政推進協議会」及び「日本草地学会」等の会員として引き続き活動する。